

Fukugin  
**JOURNAL**

2016  
盛夏号  
SUMMER

【寄稿】

県境を越えた広域連携による  
地域活性化の可能性について

福井県立大学 井上 武史准教授

【シリーズ：北陸新幹線金沢開業の勘所④】

関西、中京への心配りと  
函館への目配り

福井県立大学 江川 誠一講師

【フォーカス】

伝統工芸「若狭めのう細工」

- 01 寄稿 県境を越えた広域連携による地域活性化の可能性について 福井県立大学 井上 武史 准教授
- 06 シリーズ 北陸新幹線金沢開業の勘所④ 福井県立大学 江川 誠一 講師
- 10 フォーカス 伝統工芸「若狭めのう細工」
- 14 景気調査 「福井銀行景気動向調査」調査結果
- 15 健康ライフ “深呼吸”でリラックス！
- 16 クローズアップ 福井県企業、女性活躍推進の取組状況は？
- 18 特集 福井銀行のダイバーシティマネジメント
- 20 海外ビジネスレポート 中国七変化～華麗なる変面ショー～
- 22 主要経済指標



青葉山 若狭和田ビーチより

## 表紙 青葉山（若狭富士）

古くから多くの信仰を集める伝説のパワースポット「青葉山」は、福井県と京都府にまたがる標高693mの山です。この美しい円錐形の山容から別名「若狭富士」と呼ばれています。青葉山は北陸と近畿の境界に位置することから北方と南方の多様な植物が自生しており、昔から薬草の宝庫として研究者に知られてきました。近年では、この独自の環境が生んだ天然資源の保護と活用の取組みが行われています。



青葉山 高浜漁港より

### ← 若狭和田ビーチ

2016年4月14日に若狭和田ビーチが国際的に評価され、ブルーフラッグを取得しました。透き通った水と白い砂浜といった「水質」や「環境マネジメント」はもちろん「環境教育と情報」「安全性・サービス」も含めた4項目33基準の厳しい基準をクリアして、優れたビーチとして認定されたものです。高浜町では「100年後もキレイな海を子どもたちへ」を合言葉に様々な活動を続けています。



7月9日に「ブルーフラッグ」が掲揚されました。

### ← 中山寺

青葉山の中腹にある中山寺は真言宗の寺院で、泰澄大師が創建されたと伝えられています。中山寺は北陸三十三カ所観音霊場の第1番札所であり、若狭観音霊場の第33番札所となっています。観音霊場には、慈悲と智慧により、すべての人々を救済されるという霊験あらたかな観音様がお祀りされています。





# 県境を越えた広域連携による 地域活性化の可能性について



福井県立大学 地域経済研究所  
准教授 井上 武史

## はじめに

東洋経済新報社の調査による「住みよさランキング」が、つい先ごろ発表された。これは、全国813市区を対象に「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5部門で客観的な指標を用いて毎年算定され、総合順位を決めるものである。福井県内では複数の市が上位にランクされるので注目度も高いのだが、今年も坂井市が全国5位、鯖江市が6位、福井市が17位に入った。県内9市のうち実に3分の1が上位5%に入っているということは、福井県が住みよい地域であることを理解するのに十分な実績であろう。

実は、「住みよさランキング」では福井県に限らず北陸3県とも多くの市が上位を占めている。石川県では野々市市が4位、かほく市が7位、能美市が10位、富山県でも、砺波市が3位、魚津市が13位、滑川市が14位に入った。3県ともに3市ずつが全国20位以内に入っているから、上位5%のほぼ半分を北陸勢が占めているのである。したがって、北陸全体が住みよい地域である、ということもできるだろう。

さて、本稿で取りあげるのは「住みよさランキング」ではない。福井県内で進められている、県境を越えた広域連携による地域活性化の可能性について考えてみたい。筆者はこれまで、本誌で人口減少対策や地方創生について自ら関わった事例を紹介し、私見を述べてきた。このテ

マは実に多くの方がさまざまな角度から検討(筆者の感覚では批判が多いようだ)が行われているテーマだから、筆者はあまり触られることのない「ニッチ」な部分を意図的に選んできた。本稿のテーマも、同じようなスタンスで設定したものである。「住みよさランキング」の話題は、広域連携の対象と一般的に考えられる北陸3県が似たような特性を持つ地域であることを認識していただくための材料として取りあげた。

県境を越えた広域連携は、決して新しいわけでもなければ珍しいものでもない。例えば、社会科の教科書でもおなじみの「太平洋ベルト地帯」や「4大工業地帯」などは、県境を越えた広域的なネットワークや産業立地の状況を示す言葉である。また、最近でも「昇龍道プロジェクト」のように、海外からのインバウンドを推進することを目的として中部と北陸9県の自治体や観光関係団体、観光事業者等と協働して中部北陸圏の知名度を向上するための取り組みなどがある。

ただし、これらは国の政策もしくは主導という性格が強く、自治体独自の取り組みのなかで目立った広域連携の事例は少ない。国が自治体を巻き込んで連携を主導するよりも、自治体同士の連携の方が難易度が高そうなことは直感的に理解できる。実際にも、平成の市町村合併で市町村の数は約3,300から1,800へと減少したが、国や県による推進策を加えても結果的には当初

の想定ほど合併は進まなかった。自治体間の連携が決して容易ではないことを物語っているだろう。県境を越えた連携は、さらに難しいのではないだろうか。

また、地方創生の取り組みでも「連携中枢都市圏」や「定住自立圏」など広域連携に関するものが含まれている。しかし、これも閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針」などには示されていても、自治体が策定する地方創生総合戦略では自らの人口減少対策に力点が置かれているため、広域連携の優先順位は必ずしも高くないようである。

## 1. 越前加賀インバウンド推進機構

図1 越前加賀インバウンド推進機構の参加自治体



最初の事例は、本年5月に設立された「越前加賀インバウンド推進機構」である。図1のように福井県勝山市と永平寺町、坂井市、あわら市、そして石川県加賀市が参加しており、福井県と石川県の4市1町による連携形態をとっている。北國新聞によると、機構は2011年5月に結成された「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」を発展させたもので、宮元陸加賀市長が北陸新幹線金沢開業で国内外の観光客が増えた好機を生かし、訪日外国人をさらに誘致するには県境を越えた連携が不可欠として、福井県内の4市町に設立を呼び掛けた。また、計画では、小松

県境を越えた広域連携を自治体独自の取り組みとして進めることは、容易でないとはいえ不要なわけではない。むしろ、平成の市町村合併が一段落した現在、自治体全体を統合するのではなく広域連合や一部事務組合など個々の政策分野や事務を通じた連携が模索されている。自治体間の連携は今なお重要課題なのである。

では、今後、県境を越えた広域連携は自治体が主体的に進める連携の1つの形となりうるのだろうか。本稿では、福井県内で進められている2つの事例から考察することにした。

空港、関西国際空港、福井港を活用して誘客を図るため、首長による東アジア、東南アジアなどへのトップセールスや海外メディアと旅行会社の招致、外国語に対応した観光パンフレットとプロモーションビデオ作成、統一ロゴ制定などを予定しているという注1。

上記の点から分かるのは、越前加賀インバウンド推進機構が設立された目的が観光振興にあり、その手段に宗教と文化という共有財産を用いて、県境を越えた広域連携を行う点である。

観光振興については、北陸新幹線金沢開業とインバウンドの増加など、新たなチャンスを迎えている。北陸新幹線金沢開業からすでに1年以上が経過したが、利用客が在来線特急の3倍に達しているという。ただし、その多くが金沢に集中し、沿線地域への効果の浸透は必ずしも一様ではない。機構に参加する市町でも観光客の増加は見られるものの金沢に匹敵するような状況には至っておらず、効果の広がりや敦賀延伸に対する期待が高まっている状況と言えるだろう。

また、インバウンド需要も急速に増えている。日本政府観光局(JNTO)の発表によると、2016年5月の訪日外客数は前年同月比15.3%増の189万4千人であり、5月として過去最高を記録した。2013年に訪日外客数が初めて1,000万人を突破して以降も増加傾向が続いており、2015年には

1,974万人に達した。2015ユーキャン新語・流行語大賞に「爆買い」が選ばれたことから分かるように、インバウンドの旺盛な消費意欲は地域経済の活性化にも大きく寄与すると期待されている。中国の成長鈍化やイギリスのEU離脱決定などの影響で円安傾向が変化しつつあるため今後の見通しは不透明な状況だが、インバウンドへの期待は依然として高いと言えるだろう。

このような観光振興の契機を捉えるための素材として注目されているのが、宗教と文化である。機構の前身となったのは越前加賀宗教文化街道で、信仰の山として崇められる霊峰白山とともに歩んだ歴史があり、白山信仰や永平寺など神社・仏閣や文化が多く残る地域のことである。加えて、その基盤となっている「祈りや感謝の心」を呼び覚まし、心身を癒やす「ホワイトヒーリング」というキーワードでソフト面の魅力も打ち出している。

観光スポットの連携は表1のように様々な分野から多数挙げられているが、来訪で終わるのではなく感謝の心や癒やしの効果に結びつけよ

うと意図している点が興味深い。「ホワイトヒーリング」の聖なるスポットをめぐる自分が「自分と対峙し、心を浄化させること。明日への生き方が前向きになり、心豊かな旅ができる道」と紹介されているが、一般的な観光とは大きく異なることを感じさせる。

表1 越前加賀宗教文化街道に含まれる観光スポット

分野	掲載数	主なもの
宗教文化スポット	14	大本山永平寺
工芸文化スポット	4	越前竹人形の里
歴史文化スポット	6	ゆめおーれ勝山
癒やし・絶景スポット	8	あわら温泉
あそびスポット	10	恐竜博物館

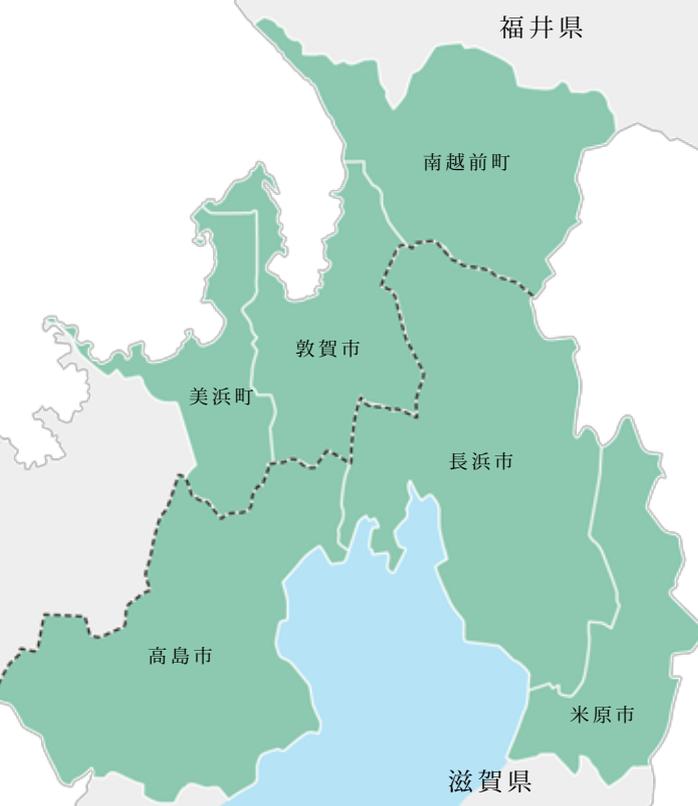
出展：越前加賀宗教文化街道HP（2016年6月27日閲覧）  
<http://www.white-healing.jp/spot/spot.html>

注1：北國新聞ホームページより。（2016年6月27日閲覧）  
<http://www.hokkoku.co.jp/subpage/H20160206102.htm>

## 2. 敦賀市ハーモニアスポリス構想

次に紹介する事例が、敦賀市ハーモニアスポリス構想である。これは今後研究会を立ち上げて具体的な検討に入るの、事例という段階に至っているわけではないが、新たな動きとして注目される。構想は、図2のように福井県敦賀市と美浜町、南越前町、そして滋賀県高島市と長浜市、米原市の4市2町を圏域とするものである。福井新聞によると、ハーモニアスポリス構想の背景として、各地の資源を補完的に活用することが想定されているという。すなわち、敦賀市には海外航路を持つ敦賀港があり、滋賀県には広い平野と産業集積があるなど、それぞれ異なる強みを持つことから、敦賀市から高島市に抜けるトンネルを整備するなどして連携し、地域活性化や人口維持など相互の利益につなげるものである。また、美浜町とは舞鶴若狭自動車道で、南越前町とは嶺南と嶺北の一体化が促進されることで、経済効果が期待できるとしている。

図2 敦賀ハーモニアスポリス構想の圏域



ハーモニアスポリス構想の策定に対して、滋賀県の3市からは良好な反応が得られているとされ、参加市町の担当課長級による研究会が発足した。道路網の検討を始めとして3年かけて構想を策定するという一方で、実現までには10年単位の年月を要すると見込まれている注2。

ハーモニアスポリス構想の目的は、直接的には産業振興であり、最終的には地域活性化や人口の維持である。そのための重要な手段として、道路の整備が位置づけられている。いずれも地域が長らく直面してきた課題であるが、人口減少や地方創生対策の要請が契機になっていると言えるだろう。

敦賀市の歴史を振り返ると構想の背景が理解しやすい。敦賀市は港湾を軸に長らく物流拠点として発展してきた。しかし、港湾都市の特性として内外の政治経済情勢に大きく左右されることから、安定した基盤を構築するために工業化が模索された。域内に広大な用地がなかったため工業化は必ずしも大規模に進まなかったが、

原子力発電所の立地を機に地域経済は大きな飛躍を遂げた。ところが、東日本大震災後の長期停止により停滞に陥ったため、新たな産業振興策が求められている。こうした経緯のなかで、港湾を持たないが工業の発展に支えられている滋賀県を含めた近隣市町と敦賀市との連携が1つの方向性として浮上したものと考えられる。

また、嶺南と嶺北の一体化が提起されているが、その対象が一部の県内市町に限定されている点も興味深い。とりわけ舞鶴若狭自動車道が2014年7月に全線開通し、道路網の面で嶺南と嶺北の一体化を進めやすい状況となった。しかしながら、ハーモニアスポリス構想では美浜町と南越前町のみが対象となっている。もちろん多様な分野で県内の連携が進んでいるのだが、構想を機にどこまで連携が進むのか、さらに広域的な連携に発展するのかなど、今後の展開が注目される。

注2：2016年6月15日付福井新聞。

### 3. 県境を越えた広域連携による地域活性化の可能性について

ここまで、県境を越えた広域連携の2つの事例を紹介した。いずれも緒に就いたばかりなので今後の見通しは定かではない。しかし、両者は県境を越えた広域連携であり、ほぼ同時に始まった点では同じでも、連携の内容は福井県の北側(越前加賀インバウンド推進機構)と南側(敦賀市ハーモニアスポリス構想)で対照的である。すなわち、広域連携の内容として、前者は共通点を統合することによる効果の増大をめざしているのに対して、後者は相違点を組み込むことによる効果の増大をめざしていると言える。

筆者は、いずれの形態でも広域連携の可能性は高いと考えている。越前加賀インバウンド推進機構のように、同じテーマで個々の魅力が統合されれば、全体としての魅力も格段に向上するだろう。また、複数の観光スポットを訪れればそれぞれの違いや特徴も分かりやすくなり、個々の魅力も向上すると考えられる。いずれの場合でも、観光振興の効果を高めるのである。

一方、敦賀市ハーモニアスポリス構想の場合には個々の要素だけではシステムとして十分に機能しないものを、広域連携によって円滑に結びつけて機能を高める取り組みと言える。敦賀市は港湾を有しながら工業立地が十分でなく、滋賀県内は工業立地が大規模だが港湾を持たない。両者の連携によって港湾と工業立地を組み合わせることができれば、港湾と工業の双方で新たな活性化の可能性が開かれるのである。

以上から、越前加賀インバウンド推進機構も敦賀市ハーモニアスポリス構想も県境を越えた広域連携による地域活性化が期待できると筆者は考える。ただし、これまで自治体間の連携が容易でなかったことから分かるように、課題がないわけではない。端的に言えば、それは「連携と競争のバランス」ではないだろうか。

筆者は本誌2015爽秋号で地方創生に関する論考を書いた。その中で、変えるべきでないのに変えようとしているものの第2点として、地域間

競争を挙げている。すなわち、人口増加の施策に関して地域間競争が無益であるような見方があるが、競争相手さえ間違えなければ地域間競争はゼロサム・ゲームどころかプラスをもたらすこともありうる。そこで、都市圏の内部では協調しながら、他の都市圏さらには大都市との間では積極的に競争すべきである、という考えを述べた。

これは広域連携にも当てはまる。都市圏の厳密な定義は省略するが、要するに市町村の枠組みを越えて通勤・通学などを含めた生活圏域である。ここで、越前加賀インバウンド推進機構に参加する市町がどの都市圏に含まれているかをみよう。勝山市と永平寺町、坂井市、あわら市は15%~40%くらいの人々が福井市に通勤・通学している。つまり、これらは福井市の都市圏にある。一方、石川県加賀市は小松市への通勤・通学が10%を超える半面、福井市へは1%に満たない注3。したがって、越前加賀インバウンド推進機構は都市圏が異なる地域の広域連携となるのである。

次に、敦賀市ハーモニアスポーツ構想の圏域でみれば、敦賀市は市内での通勤・通学が多く、美浜町は25%程度が敦賀市に通勤・通学している。また、南越前町は北側に隣接する越前市への通勤・通学が3分の1を占めている。一方、滋

賀県高島市と長浜市は市内での通勤・通学が多く、米原市は25%程度が長浜市に通勤・通学している注4。敦賀市ハーモニアスポーツ構想もまた、異なる都市圏の広域連携となるのである。

県境を越えた広域連携であるから、多くの場合このような状況になることは避けられないかもしれない。また、このことを理由に最初から広域連携を放棄することも決して賢明とは言えない。越前加賀インバウンド推進機構も敦賀市ハーモニアスポーツ構想も観光や産業振興の面で連携することは大きな意味があるし、目的を実現する可能性も期待できる。

しかし、近隣の異なる都市圏間では競争する部分も大きくなる。人口が減少し「地方消滅」の危機さえ指摘される中で、上の2つの事例でも参加する市町の間で意味のある競争が連携と同時に繰り広げられることになるだろう。その時、「連携と競争のバランス」を保つことができるかどうか、広域連携の可能性を左右することになると考えられる。こうしたことを念頭に置きながら、今は緒に就いたばかりの2つの事例が成功することをまずは期待したい。

注3：あわら市や坂井市への通勤・通学者を含めると2%強となる。  
注4：通勤・通学の割合は平成22年国勢調査より算出した。

#### 筆者紹介

井上 武史 氏 1971年1月26日生  
公立大学法人福井県立大学  
地域経済研究所 准教授 博士(経済学)

#### 職歴

1993 敦賀市役所  
2007 福井県立大学 助教  
2009 福井県立大学 講師  
2014 現職

#### 専門

都市政策論、地方財政論

#### 著書

「地方港湾からの都市再生」(単著、晃洋書房 2009)  
「原子力発電と地域政策」(単著、晃洋書房 2014)  
「原子力発電と地方財政」(単著、晃洋書房 2015) 自治体学会研究論文賞受賞

県内外で総合計画の策定や政策評価の実施など、多数の政策審議に携わる。



# 関西、中京への心配りと、 函館への目配り

福井県立大学 地域経済研究所

講師 江川誠一

北陸新幹線金沢開業から1年4ヶ月が経過した。1年目の熱狂的な盛り上がりには比べると、2年目はやや落ち着きが見られるところだが、北陸の各地において生じた変化は継続している。そのようななか、まだ新幹線が延伸していない福井県において、金沢開業前からの主要顧客である関西、中京方面からの観光客にはどのような動向がみられるのであろうか。

北海道にも新幹線網が伸び、本年3月26日に新青森～新函館北斗駅が開業した。全国が高速交通体系で結ばれることにより、人々の移動利便性は飛躍的に向上するが、北海道新幹線の開通によって開業わずか2年目において北陸の優位性や注目度は、どの程度揺らぐのであろうか。

そこで、シリーズ4回目となる本号では、45のポイントのうち「福井の観光地の最大顧客は引き続き関西、次いで中京であることを忘れてはいけない(17)」、「金沢開業1年後に北海道新幹線新函館北斗駅開業。北陸ブームを1年で終わらせてはいけない(18)」につき若干の考察を加える。



公立大学法人福井県立大学  
地域経済研究所 講師

えがわ せいいち  
江川 誠一氏

1967年福井県坂井市生まれ。京都大学卒。シンクタンクやコンサルタント会社勤務を経て、2010年より現職。高速交通体系とまちづくりのほか、観光振興、地域振興、政策評価・事業効果、協働のまちづくり、防災まちづくり等が専門。あわら市、敦賀市、鯖江市で、北陸新幹線の開業を見据えたまちづくりに関する委員を務めているほか、福井テレビ「タイムリーふくい」でコメンテーターとしても活躍中。

## 表：北陸新幹線に関する福井にとっての45のポイント

- 01 東京～金沢が早く太い動脈で直結。2時間28分～50分、片道24便・約22,400席/日
- 02 首都圏における「北陸」への注目度はかつてないレベル。福井も健闘
- 03 観光魅力、ブランド力、交通利便性を手に入れた金沢が北陸ブームの中心に
- 04 福井～金沢は43～50分。福井にとって北陸新幹線経由東京行き便益は僅か
- 05 福井～東京の鉄路が、ほぼ同等の2ルートから選択可能に
- 06 北陸新幹線を活用して、これまでとは違った人の流れが各地で出現
- 07 福井～長野間で新しい交流が誕生。最速2時間強に
- 08 福井～大宮が北関東、東北方面との最短ルートに。最速3時間強に
- 09 シャトル新幹線(つるぎ)を含め3種類の新幹線で、金沢～富山は約20分で強固に結節
- 10 西からの在来線特急列車は金沢止まりとなり、金沢駅のターミナル化が進展
- 11 観光客は、観光地や温泉を求めて金沢起点に東西南北へ回遊
- 12 能登、富山へと、金沢から東に向かう客の福井への取り込みは困難
- 13 世界遺産 白川郷・五箇山の合掌造り集落は、首都圏からみて魅力的なコンテンツ
- 14 金沢から西を向いた客は福井まで足を運ぶ可能性。加賀地方との連携がカギ
- 15 首都圏からは「金沢の先に福井があり、福井の手前に金沢がある」という感覚に
- 16 虎視眈々と、新潟県西部、長野県は、関西をターゲットに
- 17 福井の観光地の最大顧客は引き続き関西、次いで中京であることを忘れてはいけない
- 18 金沢開業1年後に北海道新幹線新函館北斗駅開業。北陸ブームを1年で終わらせてはいけない
- 19 首都圏という新規客にとって、福井の全てが低認知・未体験。逆に高興味のチャンス
- 20 東尋坊、永平寺は福井初上陸の地としての地位は揺るがない。圧倒的知名度
- 21 北陸新幹線と東海道新幹線を活用した大周遊ルート(Japan Ring)にも注目
- 22 福井は、京都と金沢の間のミッシングリンクに位置するということも強みに
- 23 北陸新幹線によって外国人観光客の流れが変わる可能性。福井もこれを見据える必要
- 24 福井における観光消費額を増やすためにも、あわら温泉にもっと仕掛けが必要
- 25 伝統産業集積地という観光面でこれまで低利用の磁力が、首都圏民を惹きつける可能性
- 26 地域の宝を丁寧に探し協働のまちづくりを進めること等で、住んでよし訪れてよしの地に
- 27 おもてなしを形にすること、言葉にすること、心を込めることの重要性
- 28 金沢に嫉妬、羨望したり無関心を決め込むのではなく、あざとくその恩恵を取りにいこう
- 29 金沢や加賀とタッグを組めるところ、差別化するところ、おこぼれを狙うところの見極めも大事
- 30 金沢でのコンベンションの宿泊需要のオーバーフローも狙い目
- 31 福井国体から県内延伸まで(2018～2023年)は福井を全国に売り出すまたとないチャンス
- 32 小松～羽田便は「便数維持・機材小型化・低価格化」で対抗。安さが新たな魅力に
- 33 高速交通体系の利用促進策と地域活性化をからめた政策誘導という視点も重要
- 34 福井延伸を見据えつつ、二次交通の充実等、総合的な交通体系を各地で見直すべき
- 35 ハード整備の重要性は変わらないが、そこに住民の魂を込めることにもっと注力すべき
- 36 地域を支え地域に愛される並行在来線という共通認識が、県民の中で広がっていくことが不可欠
- 37 開業前倒しにより、受け入れ態勢のスピードアップがますます必要
- 38 敦賀開業にフリーゲージトレインが間に合わない場合に向けた準備も必要
- 39 福井駅先行開業については、その投資効果を見極めた上で最適解を
- 40 特急停車駅のなくなる鯖江市では、まちのへそと軸を描きなおす必要
- 41 越前市では、武生駅と新幹線新駅となる(仮)南越駅のまちづくり上の位置づけが重要
- 42 福井延伸後の終着地敦賀を世界につながる港へ
- 43 リニア中央新幹線品川～名古屋間開通(2027年)を見据え、名古屋との結びつきを再評価する必要
- 44 東海道に直結してこそその北陸新幹線であるが、敦賀以西のルートは多様な視点で慎重な検討を
- 45 ICTツールのキャッチアップから先駆者へ

※本資料の内容は、筆者による「地域経済研究フォーラム『新幹線とまちづくり—金沢開業1か月前に、今一度、ポイントを押さえておく—』、2015/2/12」での講演資料を加筆・修正したものである。

# 1 福井の観光地の最大顧客は引き続き関西、次いで中京であることを忘れてはいけない(17)

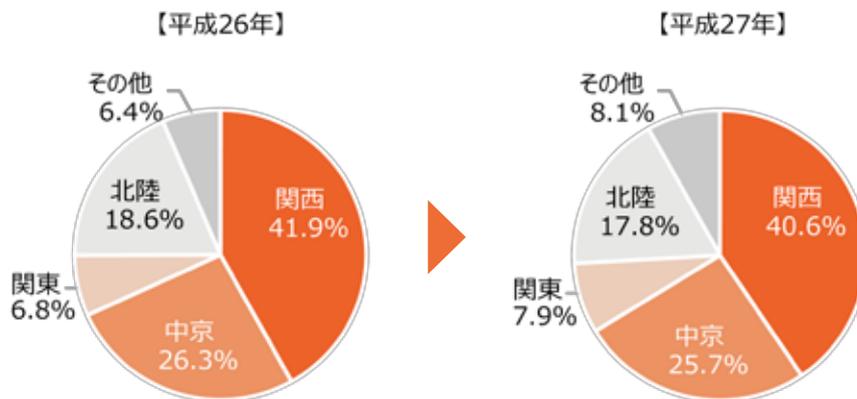
## (1) 平成27年の観光客入込数

福井県における平成27年の観光客入込数<sup>注1</sup>は、実人数で日帰り客が1,005万5千人、宿泊客が265万4千人となり、それぞれ対前年比で15.6%、1.4%の増加となった。入込客数の合計1,270万9千人とその対前年比12.3%増は、いずれも過去最高である。県内客・県外客別に見ると、県内客は対前年比6.8%増であるのに対し、県外客は20.1%増となっている。県外客が大きく伸びたにもかかわらず宿泊客が微増にとどまったのは、県外からの日帰り客が大幅に増加したからに他ならない。

主要観光地の入込状況は、東尋坊が147万9千人(対前年比24.6%増)、一乗谷朝倉氏遺跡が108万人(〃57.2%増)、恐竜博物館・かつやま恐竜の森が105万3千人(〃38.4%増)、あわら温泉が101万8千人(〃16.1%増)などとなっている。

県外客が大幅に増加するなか、その発地別入込状況を見ると、関西地区が構成比40.6%(実数で対前年比16.3%増)、中京地区が構成比25.7%(〃17.3%増)、北陸地区が構成比17.8%(〃14.7%増)、関東地区が構成比7.9%(〃39.2%増)などとなっている。(図1)

図1. 県外観光客の発地別構成比



観光入込のポイントは、次の5点到に整理できる。

- ① 全体として観光客入込数は大きく増加した。
- ② 宿泊客より日帰り客、県内客より県外客の伸びが大きい。
- ③ 100万人観光地が前年の1ヶ所から4ヶ所へと増加した。
- ④ 県外客はいずれの方面からも増加しているが、関東からの観光客の伸びが特に大きい。
- ⑤ 増加の主な要因としては、北陸新幹線金沢開業等の高速交通体系の整備と、それに関連する主要観光地を中心とした集中的なプロモーションの効果が考えられる。

## (2) 北陸新幹線と直接の関連がない関西、中京方面からの観光客も増加

上述したとおり発地別の入込状況は、関東地区からの観光客数が大幅に増加した。北陸新幹線金沢開業により、福井県と関東地区との所要時間は、北関東を除けばそれ以前と比べて大きな変化は生じていない。それにもかかわらず関東からの観光客が増加したのは、金沢への観光客の流れが本県にまで及んでいること、そして北陸への注目度が大きく上昇したことが理由としてあげられる。

一方で、福井県と関西、中京地区との所要時間に変化はなく、それは石川・富山両県と関西、中京地区との関係においても同様である<sup>注2</sup>。すなわち北陸新幹線金沢開業は、所要時間の観点から見ると、関西、中京地区から福井県への観光客増に対し、何ら影響を与えるものではない。これら地区からの観光客増は、北陸新幹線金沢開業による全国的な北陸への注目度アップと、舞鶴若狭自動車道の定着および中部縦貫自動車道の北陸自動車道との直結が主な要因と考えられる。

以上のように、福井県の観光戦略としては、変わるターゲットと変わらないターゲットの双方へ気配りをする必要がある。各地において、関東地区からの観光客を新しいターゲットとして意識し、従来とは異なる志向や旅行形態へ対応していくことが求められる。そして、従来からの主要顧客である関西、中京地区からの観光客については、これからも最大の顧客であることを忘れず、繰り返し訪れてくれるように心配りを怠ってはならない。

## 2 金沢開業1年後に北海道新幹線函館北斗駅開業。北陸ブームを1年で終わらせてはいけない (18)

### (1) 北海道新幹線開業後の現状

北海道新幹線新青森～新函館北斗駅開業により、東京～新函館北斗駅が最速4時間2分で直結した。北の大地と首都が高速かつ大容量の旅客鉄道でつながり、しかも函館市は市町村別魅力度ランキングで連続1位<sup>注3</sup> という強い吸引力を持っている。北陸新幹線金沢開業からわずか1年後の開通であり、2年目の反動減という避けがたい現象と相まって、北陸にとっては大きな懸念事項と捉える向きもあった。

一方で新函館北斗駅は函館市中心部から遠く、アクセス列車「はこだてライナー」に乗り換える必要がある。乗り継ぎ時間等を含めると、東京～函館駅間は最速でも4時間30分となり、最速2時間30分の東京～金沢駅間を大きく超える。さらには、一般に新幹線での所要時間が4時間を超えると、顧客は飛行機に大きく流れる。以上から、北海道新幹線は東京からの顧客増加に大きくは寄与しないという見方も多かった。

このように相反する予測があるなか、北海道新幹線開業から約4ヶ月が経過した。2年目を迎えた北陸新幹線沿線では1年目ほどの熱狂は見られないものの、前年のプラス分を帳消しにするような落ち込みは今のところ生じていないようだ。一方で函館市および道南地区の観光地は、熱狂的とまではいかないものの、対前年同期比で大幅な入込数の伸びが生じている。

いまのところこのような結果になった理由としては、次のようなことが考えられる。

- ① 東京とそれを含めた関東地区の人口およびそれに比例する観光需要は日本最大であり、1年でそれが尽きるようなボリュームではないこと
- ② 北陸(特に金沢)と、道南(特に函館)では、観光資源の特徴や地域イメージが異なるため、二者択一的な競合関係にはないこと
- ③ 北海道新幹線開業により、仙台～新函館北斗駅が最速2時間30分になり大幅な時間短縮となったことから、仙台およびそれを含めた東北一円からの観光客増が生じている可能性が高いこと

### (2) 今後の留意点

(1)の考察は開業後短期間における状況を整理したものに過ぎず、またその情報も網羅的なものではない。今後の状況を注意深く見ていく必要があることを、まずは指摘しておきたい。

高速移動が可能になり、旅行形態が多様化、個性化するなか、各観光地は自らの強みと弱みをしっかりと認識した上で、魅力や受入体制を向上させていくとともに、周辺地域とテーマを共有しながらこれまで以上に深く連携していくことが求められている。海峡で隔てられていた青森と函館(道南)は、北海道新幹線により青函観光圏として一体化を図るべく、まさにこの7～9月において「青森県・函館ディステーションキャンペーン」を実施する。北陸においては昨年10～12月において「北陸ディステーションキャンペーン」を行ったところであるが、今後も3県が一層連携し、北陸新幹線ブームという強い追い風を、北陸三県の隅々にまでしっかりと届かせることが必要である。北陸への注目度を息の長いものにしていくことが求められている。

注1：福井県「福井県観光客入込数(推計)平成27年」

注2：大阪、名古屋方面から富山駅へは、従来はサンダーバード、しらさぎが直通していたが北陸新幹線金沢開業後は金沢駅で乗り換える必要が生じるなど、むしろマイナスの影響が想定される。

注3：株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査」

# 若狭めのう細工

「めのう」は古くから七宝の一つに数えられ、優雅で艶麗な色調は人々の心を魅了してきました。独特の技術を駆使して作られる「若狭めのう細工」は、宝石工芸の最高峰といっても過言ではありません。

## 若狭めのう細工とは

めのうは、年輪状の模様をもった半透明で味わいのある「石英」という石です。この原石を200度から300度で焼くと、石の中に含まれる鉄やクロームが酸化し、石の色彩が鮮やかになります。

めのうの原石を加熱すると優美な色が浮き出ることに気づいた人達が、若狭独特の焼入れの技法を作り上げました。焼き入れが終わった硬い原石に、時間をかけて彫刻・研磨を施して、仏像・動物・鳥・魚といった置物類や装身具等に仕上げます。天然石だけがもつ光沢と、繊細で丹念に作られる細工は最高級品と呼ぶにふさわしい、味わい深い工芸品です。



↑焼き入れする前のめのう原石（若狭工房）

## 若狭めのう細工の歴史

若狭めのう細工がいつ頃から始まったか確かな資料はありませんが、一説には、奈良時代に大陸からきた渡来人がこの地に住みつき、当地の原石を使って玉造りを始めたのが起源とされています。

現地に伝わる技法が確立したのは、江戸時代に入ってからで、当時、この地には数十軒の玉造業者がいたといわれています。その一人、遠敷の高山喜兵衛が享保年間に浪花に出て、眼鏡屋に奉公中に、金剛砂を用いた研磨の技術を習得し、さらに奥州津軽を訪れた際、めのう原石を焼くと美しく発色することを知り、故郷に帰って玉造りを始めたことに由来するといわれています。その後、様々な試行錯誤の末、原石を赤土で造った火窯の中で灰に埋め、一定量の炭火で加熱を繰り返すことで美しく発色させるという独創的な「焼き入れ法」の技術を完成させました。文化文政年間には白津久兵衛が盛んに京都や大阪に売り広め、玉磨に従事する人が増えていきました。その製品は「若狭玉」「遠敷玉」などと呼ばれるようになり、若狭めのう細工は遠敷の地に深く根を下ろしていきました。しかし、この時代の作品は、数珠、根掛、櫛などの実用品が主流で、慶応の年になると大きく衰退しました。

明治になると、用具の機械化・動力化が進み、中川清助の手により美術的な工芸品の彫刻法が完成され、それまでの実用品から仏像・動物・鳥・魚といった置物類や装身具等が製作されるようになりました。また、内外各地の美術博覧会に出陳して広く若狭めのう細工を紹介し、徐々に名声が高まり、国内はもとより遠く海外にまで好評を博するようになりました。世間に美術工芸品として若狭めのう細工の声価が高まり勃興期を迎えます。この頃には、置物としての「若狭めのう細工」が米国、英国などに輸出されるようになり、めのう細工をする家が遠敷村を中心とした近辺地域で300軒余りに及びました。また、天皇の即位式の際に使用される「石帯」の製作を宮内省より依頼されるなど、名実ともに国内最高の産地となりました。

## 1. 産地の取組み

昭和初期にかけて隆盛を誇った産地も、太平洋戦争が始まると主な得意先であった米国や英国などへ輸出できなくなり、国内でもぜいたく品として高い税金がかけられ販売不振に陥ります。従業者も戦争のため従軍や工場への徴用で少なくなりました。終戦後は進駐軍の注文が多数入るようになり、漸く安心して仕事ができるようになりますが、これまで産地に持ち込まれていた北海道のめのう原石が枯渇しはじめると、原石不足による仕事薄から離職者が相次ぎ、産地は衰退の途を辿り始めます。

産地では、昭和27年、若狭めのう細工の復興を目指して「若狭めのう商工業協同組合」を設立し、産地の立て直しを図ります。ブラジル産原石の使用や切断機、研磨機などの共同購入を進めていきます。昭和49年、これまでの加工場に隣接して切断工場、倉庫、事務所を建て、新鋭の切断機1台を購入し、より大きな原石を切断できるようになりました。このめのう細工の工場は、国鉄バスの国宝めぐりのコースに組み入れられ、1日平均百人前後の観光客が訪れるようになりました。昭和51年、国の伝統的工芸品への指定に合わせて、検見坂の国道27号線沿いの約2千平方メートルの敷地に展示即売場、研修室、協同作業場を持つ施設「若狭めのう会館」を移転新築し、後継者の育成と観光客の増加に備えました。

その後も超音波加工機や超音波洗浄、コンピューター処理による自動研磨機を導入して技術革新をはかり、加工精度の向上や作業時間の短縮を進め、原石の共同購入や共同販売など精力的に活動するなどして、昭和58年頃には年間5万人の観光客が観光バスで訪れるようになりました。

このように一時期、成果がみられたものの、人々のライフスタイルが変化し利便性や合理性を追求する人が増える中で、高度な加工技術を要し値の張るめのう細工の需要が伸び悩む一方で、海外からの輸入品や甲府の水晶、東京の硝子細工などの代替品に押されるようになります。平成9年12月28日、時代の激しい変化に衰退の流れを食い止めることが出来ず、めのう細工製品の先行き不振と後継者難により、めのう会館は閉鎖され、そして若狭めのう商工業組合は平成11年3月に解散しました。従事する職人は、現在たったの2名まで減少しています。

「若狭めのう細工」は、当地にのみ息づいた産業ですが、産地の実情は、需要の変化、職人の減少と高齢化、後継者不足の中で技術・技法の伝承はもとより、産地の存続すら危ぶまれる事態となっています。

若狭めのう細工職人の上西宗一郎さんにお話を伺いました。

一めのう細工を始められたきっかけについて教えてください。

御食国若狭おばま食文化館の伝統工芸品づくりの体験コーナーでインストラクターをしたことがきっかけです。平成15年にオープンしたときに若狭工房で指導員の募集があって、体験希望者にめのう細工の行程を説明していました。自分でも実際に作業を体験した方が上手に説明できるかなと思って、工房にいらした職人さんに習いながら、鯉を一から作らせてもらいました。やってみたら面白かったので、本格的にやってみようかなという感じでした。最初から職人になろうと弟子入りを頼んだ訳ではありません。



↑ 製作中の作品について話す上西さん



↑ 初めて作った思い出の鯉

一めのう原石はどのように調達しているのでしょうか。

組合があった頃は北海道の山に採掘権を持っており、北海道の良質な原石が手に入っていました。今では、北海道もあまり採れなくなったため、良質なブラジル産の石を使用しています。北海道の原石は、最初から赤色で、これに焼入れをすると発色して綺麗な赤になります。ブラジル産のものは、ねずみ色っぽい感じになります。

めのう原石の確保が大変で、なかなか大きなものは手に入りません。今は亡くなった師匠のところに残っている石を使わせてもらっています。器を作るには、石にある程度の深さがないとできないので、原石がないと、なかなか作りたいものが作れません。

### —めのう細工についてお聞きします。

めのうは凄く硬度の高い石で、ダイヤモンドに匹敵するくらい硬い石です。これを削って形にしていけますが、削るというより研磨剤をかけて擦っていく感じです。研磨機に押し当てても1ミリぐらいしか削れないので、形になるまで繰り返し作業します。

また、めのう細工には設計図がなく、先人の作品を手で覚えて、見て覚えて石を削って形にしていけます。実際に削っているときは、泥のような研磨剤で見えないので、石を持っている手の感触が頼りです。昔は、師匠が削ったものを弟子が磨く作業をしていましたので、弟子は磨くことで師匠の作品を手にとって形を覚えていったようです。今年の5月に師匠が亡くなって、このやり方は出来なくなりました。今は師匠の作品を見本として手元に置いて見て触って作っています。



↑押し当てるコマを取り替えながらの作業

### —産地の現状について教えてください。

昔は、きちんと産地組合があって、展示即売場や研修室、協同作業場を兼ね備えためのう会館がありました。その頃は、技術研修会やデザイン研修会が開かれたり、新型の加工機や研磨機を導入したりして、後継者の育成にも力を入れていて、一時は若手の職人も増えたようです。そのめのう会館も平成9年に閉鎖されて、平成11年には産地組合も解散してしまいました。今では、食文化館内の若狭工房に体験コーナーと僅かに作品が置いてあるだけになって、昔の職人さんの作品など若狭めのう細工をみる事ができる場所がなくなっています。私の上

↓硬いめのう原石を削って、ぐい飲み形のようになっていく様子



の世代の人は、めのう会館に研修室や協同作業場がありましたので、先輩の職人の方に教えてもらったりして技術の習得ができたようですが、その会館もなくなってしまっ、伝統工芸でよく言われる後継者不足ではなくて、教える施設と教える人がなくなっている。後継者を育成する仕組みがない状況です。



↑コマに押し当てて削る様子

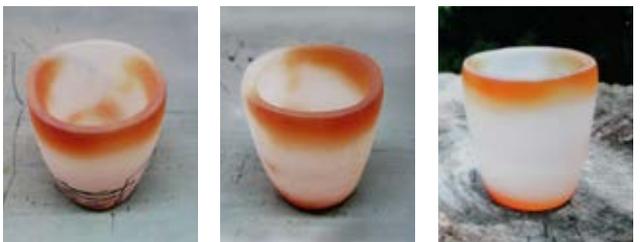


↑出来上がった作品

### —最後に。

若狭めのう細工は、明治時代に彫刻技術を取り入れて、それまでの簡単な玉磨から香炉や仏像といった手の込んだ美術工芸品を作るようになりました。石の持ち味を十分引き出す技術・技法を駆使した作品は、手が込みすぎて高価なものになって売れなくなりました。また、めのう細工の高い技術は習得が難しく、それが後継者を育ち難しくさせているのだと思います。売れない、後継者がいない、負の連鎖が続いているので、どこかで流れを変えたいと考えています。

今、福井県にある伝統的工芸品の若手職人の集まり「七人の侍」というグループに参加して、他の伝統工芸の方々と一緒に活動しています。若狭めのう単独では、産地組合もなく情報発信力が弱いのですが、一緒に発信していくことで注目され新聞で紹介されたり、百貨店の催事に展示できたり、活動の場が広がりました。若狭だけでは難しかったデザイン企画会社との商品開発の話などが、グループで集まることで出来るようになりました。なかなか売れないのですが、アクセサリーといった需要がありそうな小物も作りながら、将来的には香炉といった若狭ならではの本格的な作品を作りたいと思います。



製作 / 写真提供 : 上西宗一郎さん



## 若狭工房

御食国若狭おばま  
食文化館2階

御食国若狭おばま食文化館の2階にある若狭工房では、体験コーナーやイベント等を通じて、若狭の伝統工芸の魅力を発信するとともに、後継者育成・新商品開発など、伝統工芸の継承・活性化に努めています。ここでは、若狭の伝統工芸品の販売や匠たちの実演のほか、来館者が実際に伝統工芸の体験をすることができます。

施設内には、食文化館がオープンしたときに若狭の伝統工芸で作られた楽器の一つ、めのうで作ら



れたオカリナが展示してあります。本来、めのう細工は、焼き入れた一つの石を削って形にしますが、このオカリナは、焼きの入っていない生めのうを貼り合わせています。これは若狭めのう細工の中で唯一の楽器で、職人の方がいろいろと試行錯誤を重ねた末、きちんと音が出るように作られています。オカリナの他には若狭塗の横笛・若狭和紙の太鼓・若狭瓦のマリンバが作られています。



若狭工房  
〒917-0081  
福井県小浜市川崎3丁目4番  
御食国若狭おばま食文化館2階  
TEL  
0770-53-1034  
URL  
<http://wakasa-koubou.com>



## 「めのう磨き」を体験してみました



4色の様々な模様の中から自分の気に入った石を選びます



サンドペーパーで磨きます



見本の輝きを目指しひたすら磨きます



納得できるまで磨けたら、金具をつけてもらいます



完成！

めのうを素材にした体験メニューはこの他「めのう薄板模様つけ」があります。

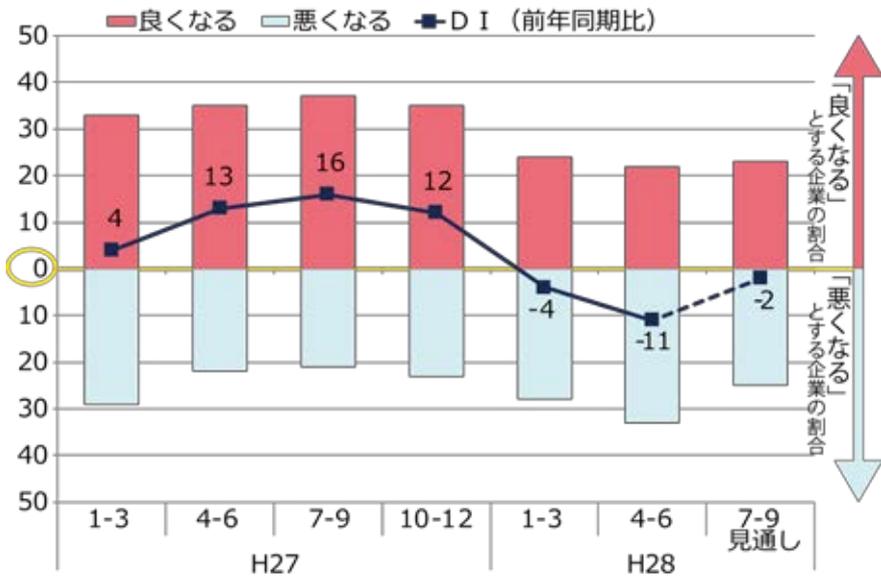


# 福井銀行 景気動向調査

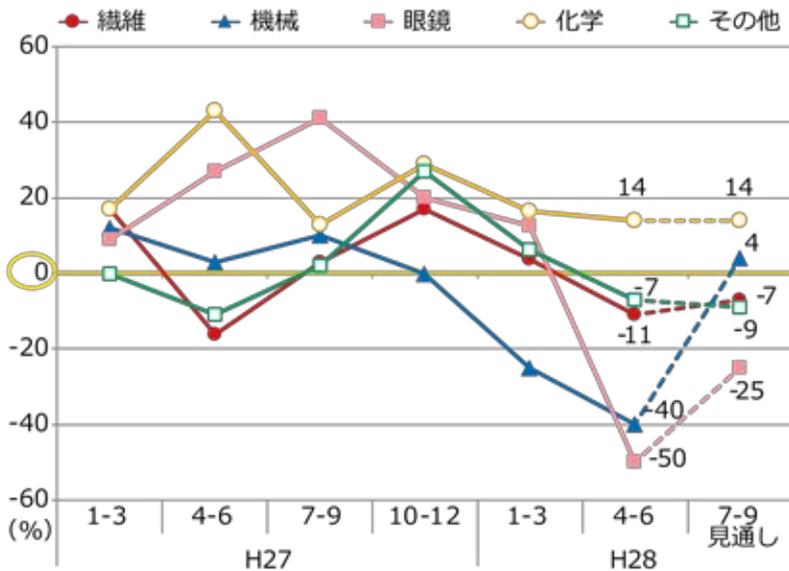
調査対象企業…福井県内1,158社  
回答企業…福井県内435社  
(回答率37.6%)  
平成28年6月初旬実施

足元の景況感は、中国の景気減速や先行きに対する不安感からの消費低迷等によって、前期に引き続き低下し、マイナス幅を広げています。

自社の業況判断D Iの推移



業種別業況判断DIの推移 (製造業)



### 繊維

大幅に低下しマイナスに転じた。先行きははやや上昇を予想するもののマイナスの見通し。

### 機械

マイナス幅を広げ一段と厳しい状況になっている。先行きは大幅に上昇しプラスの見通し。

### 眼鏡

大幅に低下しマイナスに転じた。先行きは上昇が予想されるもののマイナスの見通し。

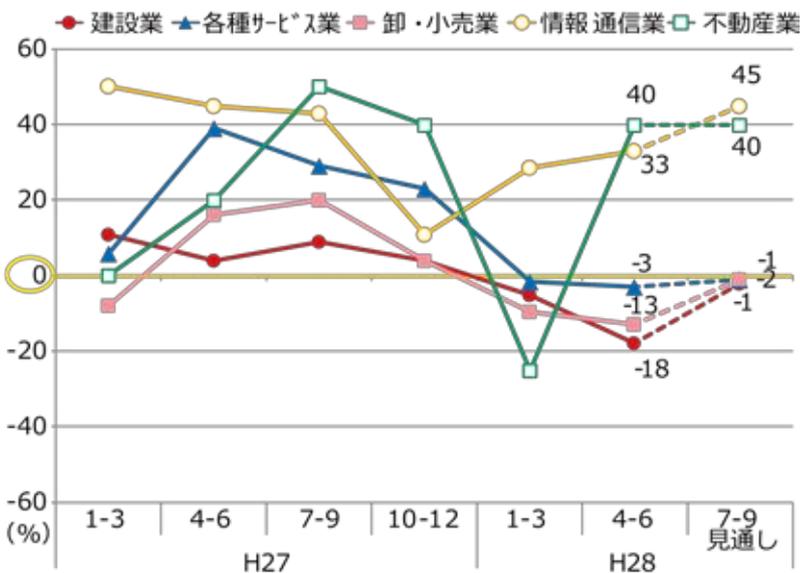
### 化学

高い水準を維持している。先行きは横ばいでプラスの水準を維持する見通し。

### その他製造業

大幅に低下しマイナスに転じた。先行きははやや低下する見通し。

業種別業況判断DIの推移 (非製造業)



### 建設業

マイナス幅を広げ厳しい水準となっている。先行きはマイナス幅を大きく縮める見通し。

### 各種サービス業

横ばい。先行きははやや上昇する見通し。

### 卸・小売業

マイナス幅を広げ厳しい水準となっている。先行きはマイナス幅を大きく縮める見通し。

### 情報通信業

上昇し、高い水準を維持している。先行きはさらに上昇が見込まれている。

### 不動産業

大幅に上昇。先行きは横ばいの見通し。

※詳細は、当行ホームページにてご確認いただけます。

自律神経の乱れは万病のもと

# “深呼吸”でリラックス！

保健師 表 仁美

ストレス時代…。私たちが生きる21世紀はこう呼ばれています。程度の差はあれ、現代人の生活にストレスはつきものです。

適度なストレスは人間の行動を良い方向に導くことがあります。過剰なストレスは自律神経のバランスを乱します。自律神経が乱れると、不眠やうつ病などさまざまな不快な症状を引き起こします。自律神経を上手にコントロールしていくことが、日々を快適に過ごす大切なポイントになります。

## ● 自律神経って？

自律神経は「交感神経系」と「副交感神経系」の2つの神経系統で構成され、体のあらゆる機能をコントロールしています。交感神経は「闘争と逃走の神経」と言われ、体のアグレッシブな部分を、副交感神経は「休息の神経」と言われ、リラックスの部分の司っています。本来この2つの神経がバランスよく働き、体を維持していますが、ストレスや不規則な生活が続くことで、簡単にバランスが崩れてしまいます。

## ● ストレスを感じる時は、呼吸は浅くなる

私たちの体は、副交感神経が優位になる時間がないと、心身ともに疲弊してしまいます。強いストレスを感じているとき、緊張しているとき、落ち込んでいるとき、よく眠れない時、人は呼吸が浅く・速くなります。浅く・速い呼吸が続くと「交感神経」のスイッチが入り、心身ともに緊張状態になります。自律神経の動きは体の自然な反応ですが、呼吸の状態を少し意識することで自分でもコントロールできます。



## 意識してリラックス状態をつくらう

深く・ゆっくり呼吸することで、副交感神経が優位になり、心身ともにリラックス状態を作り出すことができます。

昼休みの間・寝る前など5分程度の時間で構わないので、「腹式呼吸」と言われる深くゆっくりした呼吸を意識して取り入れてみましょう。吸う時も吐く時も時間をかけてゆっくり行うことがポイントです。

私たちの生活は、さまざまなストレスにさらされていて、ちょっとしたことで交感神経が優位になりやすい状況にあります。日常の中に深呼吸を取り入れて、ストレスと上手に付き合っていきましょう。



# 福井県内企業、 女性活躍推進の 取組状況は？

2016年4月より「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が施行されました。福井県は、女性の有業率・共働き率が全国1位、また女性の正規社員比率は全国トップレベルにあり、女性の働き方「福井モデル」が注目されています。今般、景況アンケートにおいて、県内企業のみなさまに女性活躍推進についてお伺いしましたので結果をご報告させていただきます。

2016年4月1日から女性の職場における活躍を推進する「女性活躍推進法」が施行され、301人以上の労働者を雇用する事業主は自社の女性の活躍状況の把握・課題分析、行動計画策定と届出、情報公開を行う必要があります（300人以下の事業主においては努力義務）。また、この「女性活躍推進法」では、行動計画の策定と届出を行った企業のうち、特定の基準において優秀な企業は厚生労働大臣から

認定をうけることが出来ます。この認定は3段階あり、企業は認定なしを含めると4段階に格付けされることとなります。人材確保において企業のアピールは重要です。女性活躍のための社内制度の整備が目に見える形でアピール出来る「えるぼし」や子育てサポート企業であることの認定制度「くるみん」は、企業の規模に関わらず今後取得が増えると思込まれます。

## 質問内容

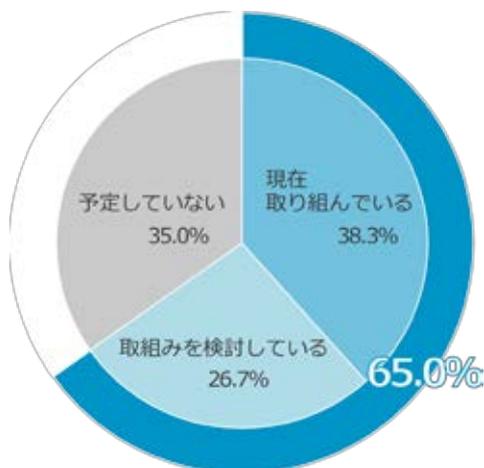
女性の活躍推進の取組み（女性の採用・登用・教育訓練・働き方や意識の改革など）について

### ■ 企業の2/3 が女性活躍の取組み

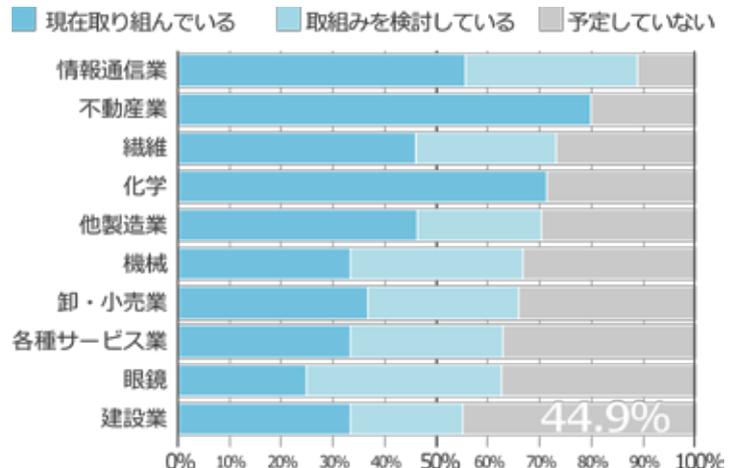
女性活躍推進の取組状況をみると、「現在取り組んでいる」が38.4%、「今後の取組みを検討している」が26.8%と、取組みに前向きな企業は全体の約3分の2となっています。概ね女性の活躍推進の意識が高いことが窺われます。

業種別に細かくみていくと、「現在取り組んでいる」「今後の取組みを検討している」の割合に差があり、すでに女性活躍推進への取組みを進めている業種と意識はあるものの実際の取組みまでは至っていない業種が見られます。女性労働者が少ない建設業では「予定していない」が4割を超えています。

【図1】全業種での取組割合



【図2】業種別取組割合

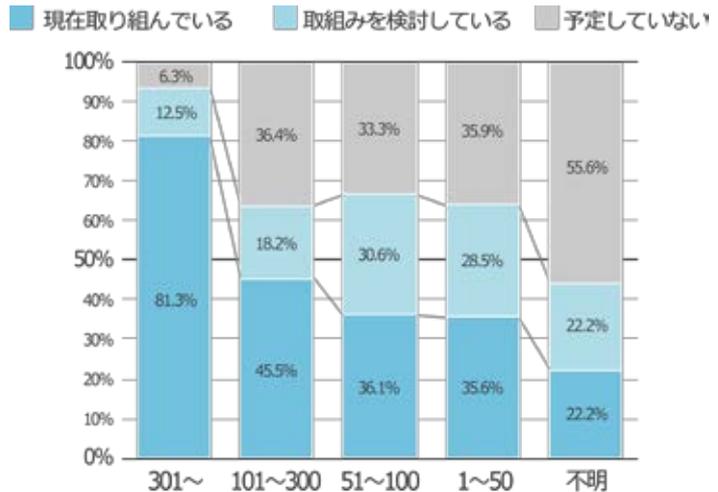


福井銀行景況アンケート6月実施分より作成

### ■ 企業の従業員規模でみる取組割合

従業員数別でみると、「現在取り組んでいる」「今後の取組みを検討している」の割合は、法律により義務付けられている301人以上の企業が9割超となっていますが、300人以下の企業では6割以上となっています。「現在取り組んでいる」の割合は、従業員数に比例して高くなる傾向にあり、中小零細企業では女性活躍推進の意識は高いものの実際の取組みは進んでいない様子が窺えます。

【図3】 従業員数別割合



福井銀行景況アンケート 6月実施分より作成

### 質問内容

女性の活躍に向けての取組みとして具体的に「現在取り組んでいる」または「取り組む予定」の推進策について

### ■ 女性活躍に向けての具体的な取組み

女性活躍に向けての取組みとして具体的に「現在取り組んでいる」または「取り組む予定」の推進策は「管理職への登用」「職場の意識改革」「育児支援」「働き方の見直しや多様性の確保」の順に回答が多く、製造業と非製造業の違いによる大きな傾向の差はみられませんでした。

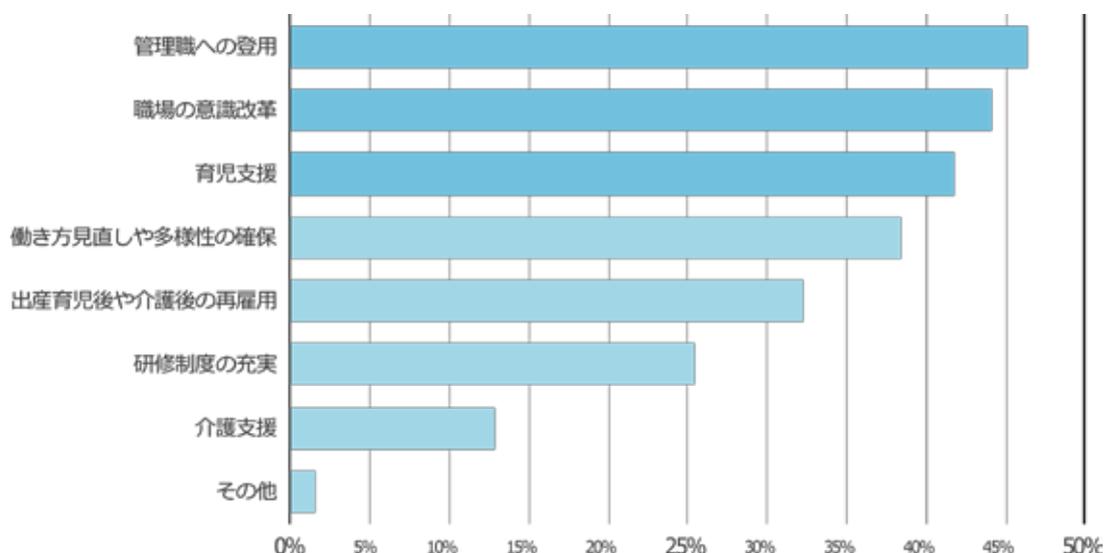
福井県内の有効求人倍率は、今年4月に1.8倍を超えるなど人手不足が続いており、「管理職への登用」のほか「その他」において「女性の採用を増やす」「営業職への登用」と回答するなど、女性の活躍の場を

広げて人材・人員の確保に動いていることが見受けられます。

また、「育児支援」「働き方の見直しや多様性の確保」「職場の意識改革」など働きやすさの改善を進めていることも窺えます。

福井県は、女性の有業率・共働き率が全国1位、また女性の正規社員比率についても全国トップレベルにあり、他県に比べ女性の活躍推進が進んでいる状況にあります。今後、少子高齢化に伴って労働者不足が加速することが予想され、より一層女性の潜在能力の発揮が求められていくと考えられます。

【図4】 具体的な取組内容



福井銀行景況アンケート 6月実施分より作成

# 福井銀行のダイバーシティマネジメント

## ダイバーシティ推進に向けて

福井銀行 ダイバーシティ推進プロジェクトチーム  
チームリーダー 小川 早登子

### 福井銀行における「ダイバーシティ」への取組み

当行は、経営理念として、トライアングル・バランスの実現を掲げ、豊かな地域社会の実現のために「職員の満足(働きがい)」「お客さま(地域)のご満足」「株主の方々のご満足」をバランスよく高める経営の実現を目指しています。

そのトライアングルバランスの一つである「職員の満足(働きがい)」の取組みとして、ダイバーシティ推進プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、「女性職員の活躍機会拡大」「ベテラン職員の豊富な経験を活かす」ことで組織としての生産性を高め、一方で多様な人財の積極的活用を図ることにより、行員一人ひとりが毎日の仕事にやりがいを自ら見出し、いきいきと働ける職場環境の整備(「働き方改革」)を進めています。この「働き方改革」の一つとして、“働く時間”に対する意識改革を進め、全職員が心身

ともに健康でメリハリをつけて働けるよう総労働時間の短縮、休暇取得促進に取組み、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を目指しています。



▲ダイバーシティ推進プロジェクトチームで作成したポスター。全店に配布し掲示することで働き方改革に対する社内での意識を高めています。

### 一億総活躍社会へ

少子高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持し、家庭・職場・地域で誰もが活躍できる社会、労働人口を維持していくために、従来働いていなかった女性や高齢者の方などがいきいきと働くことができる社会が求められて

います。そのためにも働きがいのある仕事につけるような環境の整備と生産性の向上を目指した「働き方改革」が望まれています。当行でも、高齢者再雇用制度・準職員登用制度を利用し、女性・高齢者がイキイキと働いています。

### 「働き方改革」～働きがいのある会社づくりに向けて～

「働き方改革」は働く人の「量」と「質」をいかに高めていくかがポイントです。男性・女性、さまざまな年齢層の職員が、限られた時間内で成果を

しっかりと上げていくという強い思いと、自己成長、キャリアアップに向けた意識が不可欠です。特に、女性・高齢職員の活躍に注目が集まっています。

## 女性が活躍する組織とは

女性が活躍する組織とは、性別に関係なく、そこで働く職員全員が家庭と仕事の両立ができ、全職員に自己成長・社会貢献の機会がある組織です。目指す姿は、女性の活躍機会を広げることで、職員全体のレベルを引き上げ、それぞれの働き方の中で最大限の力を発揮すること。当然、女性のみが活躍する企業を目指すものではなく、女性と共に男性の成長を促進することも目指しています。

当行では「職場環境の整備」「キャリアアップ支援」の両面から女性活躍推進を図っています。5か年計画で、37項目の案件について取り組み、全職員が自身のライフプランに応じたキャリアを積んでいけるよう社内制度についても一部見直しを進めています。

働き方、休み方の改革は、働く人財が今後も活躍を続けていくために、また、これから社会に出

る若者たちに魅力のある働き場所を提供するためにも重要な意義を持ちます。



▲「勝山市産業振興懇話会」で女性活躍推進の取組事例について話す小川チームリーダー。

## 職場の意識改革～助け合いの精神～

女性が活躍する組織の実現には、職場全体でお互いの働き方に対して理解し合う「職場の意識改革」が必要です。当行では、「職場理解セミナー」をWeb配信にて実施し、育休後に元気に復職し力を発揮いただくためのサポートツールを作成しました。女性の出産・育児などのライフイベント「子どもの看病」「子どもの入学式」「授業参観」等、各自が置かれた立場で、お互いを助け合う精神が仕組みを支えています。

「いつも、いつでも、いつまでも」生きがいをもって働ける人、働ける環境の実現を目指して職員全員が各自の生活スタイルや価値観に合わせてワーク・ライフ・バランスを体現できるよう、「地域との繋がり」「お客さま第一主義」「従業員の働きがい」について取り組む施策を打ち出していきます。

働く環境を整えて営業力の強化に繋げ、お客さ

まや地域に対して「目に見える」「一緒に動いている」と感じていただける営業活動を展開し、地域産業の育成・発展と地域に暮らす人々の豊かな生活の実現に貢献したいと考えます。



▲育休セミナーの様子。職場復帰の相談や子育て情報の交換などを行っています。



みなさんは中国で変面ショー（中国語：変臉）を見たことはありますか？陽気な音楽に合わせ1人のパフォーマーが踊りながら仮面を変えていくショーです。顔に着けた仮面が、赤や黄色といった色とりどりの仮面へと次々と変化し、どんなによく見てもその仕掛けが分かりません。途中で素顔も見えますが、次の瞬間、また、別の仮面が素顔を隠します。「前」「横」「斜め」。いろんな角度で見てもあっという間に変わっていく何とも楽しいショーです。



▲変面ショーの様子

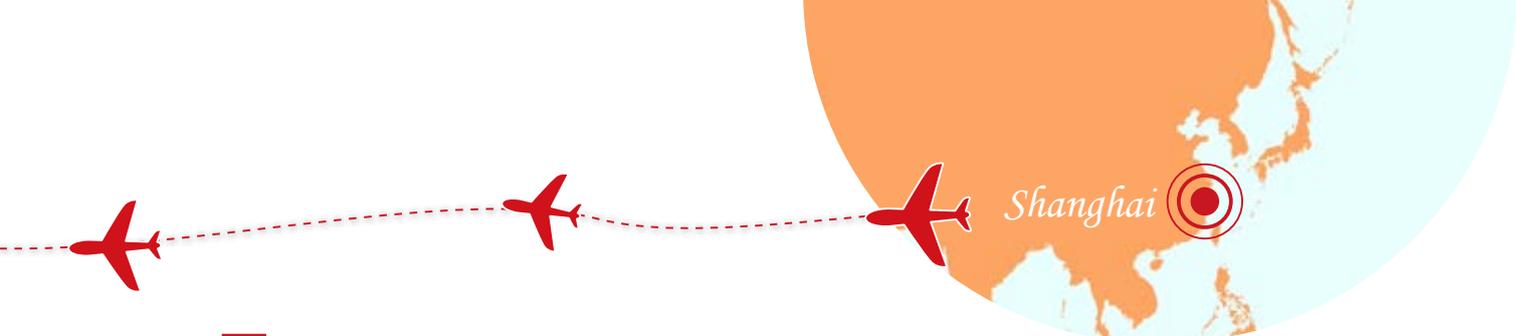
## 1 中国の七変化

中国の2015年のGDP成長率は6.8%、2016年第1四半期(1月～3月)は6.7%となり、2016年通期で6.5%～7.0%の目標のもと中国経済は発展を続けています。周知の事実の通り、中国はGDPでは世界第2位の経済大国となりました。2000年代に中国経済の二桁成長を牽引していた上海市、北京市、広東省などの地域では、高層ビルが立ち並び、高級品があふれかえっているものの、近年の経済成長率は、かつての勢いはなく平均的な推移を示しています。一方、重慶市や貴州省などの内陸の地域では先行して経済成長した沿岸地域に追いつけ追い越せと言わんばかりに、高い経済成長率の伸びを示しています。また、都市ごとに見ても上海市や広州市といった1級都市、蘇州市や無錫市といった2級都市でもその違いがあります。上海市内でも中心部と郊外では大きな違いがあり、同じ系列のコンビニでも商品構成が大きく異なっています。ここ中国には広大な国土に多種多様な地域性が存在し、奥深い市場が広がっています。中国を一言で説明することは非常に難しく、画一的な表現はできません。「点」「線」「面」、捉える視点を変えると違った中国が見えてきます。



## 2 海外旅行の七変化

先ごろ中国国家観光局が発表したデータによると、2015年に海外へ旅行した中国観光客は1.2億人に達しました。また、別の機関の発表では、中国の海外旅行者数は今後5年で4億人に達する可能性があるとして予測されています。4億人はあくまで予測ですが、現時点で確かなのは、日本の人口相当が年1回海外旅行をしたという事実です。昨年は円安ということもあり「爆買い」が注目されましたが、今年は旅行スタイルがちょっと変わってきていると言われていています。今年は為替事情が異なり、円高に変わっているのが一因とも言われています。確かに、海外旅行上級者が多い上海では、次の日本旅行はゴールデンルート(東京、大阪、京都等)以外を計画する人が多く、自分だけしか知らない特別な日本を求め、観光中心からゆっくりとした滞在を求めているとの声を聞きます。一方で、先日会った江蘇省の人は、初めて訪れる日本への旅行で、電化製品と中国で「神薬」と言われる市販薬の購入が第一の目的となり、ゴールデンルートを予定しています。目的が多様化する状況のもと、どの顧客層に照準を合わせるのかで、その対応が変わってきます。



### 3 EC ビジネスの七変化

昨年の11月11日、「双11」と呼ばれる独身者の日に行われたネット通販イベントがまだ記憶に残っています。1日で900億元(約1兆4,000億円)超を売り上げたECビジネスです。日用品の買い物もネットでの購入が多くなり、小売り革命が起っています。「越境EC」なども爆発的に増加し、今後もECビジネスは変化しながら中国での小売業の中心的役割を担っていくものと予想されます。

また、コンビニなどの決済では「アリペイ(支付宝)」などを初めとした「電子決済」が主流になり、その普及の影響でクレジットカードの発行枚数が昨年比で減少したとの報道もあります。私がよく利用しているコンビニでも、支払いにほとんどの人が電子決済を利用しています。加えて、昔ながらの老夫婦が経営している路面店舗の「ワンタン」屋でも電子決済が可能になるなど電子決済ビジネスが深く浸透してきています。この1年で大きく変化した中国のECビジネス。リアル店舗、ネット販売、選択肢を増やしながら中国市場へのアプローチ方法を変化させています。



▲金融街の浦東地区

変面ショーのように仮面が下がったとおもえば違う仮面が上に上がってくる。赤い仮面が黄色に変化し、時折素顔が見え隠れしますが、すぐに別の顔を見せてしまいます。統一された時流が無いそんな中国だからこそ、中国ビジネスではTPOのごとく「時」「場所」「目的」に合わせて柔軟な対応が必要だと考えます。

#### 海外コラム

#### 上海での駐在を終えて

2013年11月から福井県上海事務所へ赴任し、早や2年半。2016年6月末で駐在期間が終了し、帰任することとなりました。赴任の間にも中国は変化し、上海に来た初めのころから一変したように思います。ビジネス環境も変化し、製造拠点から販売拠点へと大きく軸足が動き、また、訪日客の増加、ネットビジネスの隆盛等、赴任当初とは全くの別世界になっています。本稿でも、たびたびスピードが速いとお伝えしましたが、そのスピードを目のあたりにし身を持って体感した2年半でした。現地を知るためには「見て、聞いて、自ら感じ」て「現地で触れる」この方法が近道だと思います。

中国経済の上げ下げに世界経済が反応する、ある意味世界経済の真っ只中にいました。福井より都会で便利な場所にいました。でも、やっぱり、福井が一番いいなあと思います。「んならあ〜、帰ったらあ、いっぺん、かつ丼セット食わなあかんのぉ」これが今の気持ちです。

中国語で「さようなら」は「また会いましょう」の意味の「再見(サイツェン)」と表現します。ありきたりの言葉ですが、次に会うことを約束するいい言葉だなあと思います。

それでは、みなさんまた会いましょう!

再見!

ありがとうございました。





	大型小売店販売額		新車登録（届出）台数				家計（福井市2人以上の世帯のうち勤労者世帯）				
			合計		内軽乗用車販売台数		消費支出		平均消費性向		
	百万円	前年比	台数	前年比	台数	前年比	円	前年比	%	前年比ポイント	
	年度		年		年		年		年		
2013年	74,600	4.2%	44,015	▲0.2%	19,685	3.8%	328,742	14.5%	69.0%	3.8	
2014年	75,155	0.7%	46,105	4.7%	21,407	8.7%	304,400	▲7.4%	63.6%	▲5.4	
2015年	75,119	2.5%	40,508	▲12.1%	17,270	▲19.3%	295,374	▲3.0%	63.9%	0.3	
2015年	5	6,269	8.7%	2,454	▲13.0%	1,050	▲19.8%	307,129	3.2%	86.7%	1.5
	6	6,359	2.0%	3,428	▲1.1%	1,426	▲12.1%	265,510	▲12.4%	45.0%	3.7
	7	6,103	3.1%	3,210	▲14.4%	1,271	▲23.7%	279,851	0.1%	50.7%	▲4.2
	8	6,300	2.9%	2,490	0.1%	1,024	▲11.8%	357,871	23.0%	74.4%	14.2
	9	5,590	2.5%	3,836	▲4.5%	1,560	▲15.0%	317,023	40.4%	76.2%	13.3
	10	5,923	3.8%	2,813	▲5.5%	1,212	▲5.8%	356,766	48.6%	78.9%	27.6
	11	6,222	▲1.9%	2,871	▲13.1%	1,274	▲20.8%	235,824	2.6%	61.6%	▲2.4
	12	7,160	1.6%	2,682	▲24.2%	1,028	▲49.4%	295,954	▲6.1%	42.2%	4.5
2016年	1	7,209	0.5%	2,689	1.3%	1,144	▲9.0%	292,186	4.2%	70.0%	▲4.1
	2	5,880	3.6%	3,977	▲8.7%	1,773	▲8.2%	269,214	2.3%	60.2%	3.0
	3	6,029	0.6%	6,506	▲10.5%	2,572	▲18.9%	285,387	▲5.2%	66.3%	▲17.7
	4	5,855	▲0.4%	2,395	▲2.1%	931	▲12.5%	264,632	▲6.8%	60.4%	▲7.1
資料出所	近畿経済産業局		福井県自動車販売店協会				総務省統計局（家計調査）				

（注）大型小売店販売額は全店ベースによる

	鉱工業指数（2010=100）（※1）										
	生産						出荷		在庫		
	総合		機械工業		繊維工業						
	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	
	年		年		年		年		年		
2013年	110.9	▲0.6%	139.6	1.7%	97.3	▲4.0%	110.8	▲0.5%	154.3	6.6%	
2014年	112.8	1.7%	145.8	4.4%	89.4	▲8.1%	114.9	3.7%	145.4	▲5.8%	
2015年	122.0	8.2%	176.4	21.0%	86.6	▲3.1%	118.8	3.4%	186.8	28.5%	
2015年	5	117.7	3.8%	169.7	19.2%	86.2	▲6.3%	118.4	1.5%	158.1	1.6%
	6	122.8	11.5%	177.7	24.6%	86.5	▲3.9%	122.4	10.3%	161.0	4.4%
	7	123.0	10.5%	173.4	20.6%	86.5	▲4.3%	120.4	5.0%	165.1	8.6%
	8	123.3	9.1%	180.3	23.4%	86.6	▲2.2%	118.9	2.7%	169.1	11.9%
	9	123.1	6.4%	177.7	14.2%	85.6	▲6.4%	118.9	2.0%	174.5	17.1%
	10	123.8	3.3%	186.7	17.5%	86.3	▲2.6%	118.0	▲4.4%	177.6	18.2%
	11	125.1	6.9%	183.3	11.4%	86.0	▲2.2%	121.0	6.0%	182.9	19.6%
	12	121.1	▲0.4%	175.5	0.9%	83.9	▲5.8%	110.1	▲9.9%	192.5	28.5%
2016年	1	121.3	▲1.9%	174.7	2.1%	86.6	▲3.9%	123.6	▲1.8%	187.2	19.9%
	2	115.9	▲0.6%	154.3	▲6.9%	87.3	0.1%	103.4	▲3.0%	192.9	24.0%
	3	118.4	▲1.0%	169.4	0.4%	85.6	▲2.7%	113.0	0.5%	201.4	28.1%
	4	117.1	▲3.8%	159.1	▲7.6%	83.1	▲5.9%	121.9	▲2.3%	197.1	24.0%
資料出所	福井県総合政策部政策統計・情報課										

（注）機械工業＝一般機械工業＋電子部品・デバイス工業＋電気機械工業＋輸送機械工業（※1）年間補正実施により、原指数及び季節調整指数は変更されています。

	新設住宅着工戸数								織物生産		
	合計		持家		貸家		分譲住宅		総生産高		
	戸	前年比	戸	前年比	戸	前年比	戸	前年比	千㎡	前年比	
	年		年		年		年		年		
2013年	4,439	22.8%	3,073	29.3%	925	5.1%	434	23.3%	188,966	▲4.3%	
2014年	3,495	▲21.3%	2,213	▲28.0%	940	1.6%	323	▲25.6%	201,771	5.2%	
2015年	3,911	11.9%	2,330	5.3%	1,202	27.9%	374	15.8%	195,224	▲3.2%	
2015年	5	394	27.1%	234	34.5%	148	72.1%	12	▲76.0%	15,446	▲6.2%
	6	510	51.8%	220	▲1.8%	232	169.8%	57	119.2%	16,541	▲3.2%
	7	376	16.0%	236	30.4%	119	10.2%	21	▲38.2%	16,617	▲5.6%
	8	268	▲9.2%	199	▲9.1%	41	▲32.8%	27	92.9%	15,781	▲0.7%
	9	304	6.7%	218	14.1%	68	▲8.1%	18	▲5.3%	16,119	▲7.6%
	10	366	21.6%	203	9.7%	95	5.6%	68	161.5%	17,083	0.3%
	11	315	6.4%	170	▲4.5%	110	26.4%	34	13.3%	16,357	▲4.1%
	12	312	22.8%	151	11.9%	116	63.4%	44	33.3%	15,886	▲2.2%
2016年	1	218	38.0%	129	19.4%	66	112.9%	23	27.8%	16,182	0.5%
	2	222	7.8%	168	9.8%	21	▲25.0%	33	32.0%	16,801	4.1%
	3	418	▲4.3%	254	▲0.4%	127	▲19.6%	35	45.8%	16,698	1.6%
	4	333	25.7%	231	26.2%	86	53.6%	16	▲38.5%	15,775	▲5.8%
資料出所	国土交通省								県政策統計課		

	建築着工統計（非居住用）床面積								建築着工統計（非居住用）	
	合計		鉱工業		商業用		サービス業用		工事費予定額合計	
	㎡	前年比	㎡	前年比	㎡	前年比	㎡	前年比	万円	前年比
	年		年		年		年		年	
2013年	358,022	▲7.3%	70,414	▲41.8%	65,907	10.9%	73,539	14.3%	6,170,046	▲1.1%
2014年	414,130	15.7%	116,277	65.1%	51,525	▲21.8%	40,071	▲45.5%	6,702,161	8.6%
2015年	372,129	▲10.1%	144,774	▲1.3%	67,851	31.7%	671,095	67.7%	7,253,981	8.2%
2015年 5	39,427	76.5%	12,101	179.2%	3,638	89.8%	6,460	113.1%	725,723	49.5%
6	33,263	▲17.9%	9,612	▲34.4%	3,910	▲56.2%	11,370	34.3%	758,889	▲7.9%
7	36,331	▲29.9%	16,090	▲39.2%	11,189	105.2%	6,024	62.2%	655,940	▲41.6%
8	22,751	▲14.2%	3,758	▲20.9%	2,920	▲34.4%	11,455	164.5%	589,499	48.0%
9	28,620	54.4%	12,252	68.0%	2,512	94.9%	6,409	1387.0%	493,539	85.1%
10	25,434	22.4%	5,942	60.5%	9,912	100.6%	6,540	2485.0%	418,466	3.3%
11	23,170	33.6%	11,543	222.2%	7,406	755.2%	1,185	▲69.3%	511,144	60.4%
12	35,005	▲70.9%	2,256	▲92.7%	11,180	61.2%	147	▲65.0%	419,533	▲70.3%
2016年 1	6,587	▲50.0%	214	▲74.3%	1,512	▲69.8%	2,421	▲1.9%	127,925	▲44.6%
2	11,008	▲66.9%	1,827	▲92.1%	2,420	▲62.2%	3,301	76.0%	189,866	▲62.0%
3	22,729	▲37.3%	6,247	143.5%	1,425	▲55.9%	3,142	▲22.5%	381,996	▲63.4%
4	19,574	▲56.9%	1,237	▲91.7%	4,130	660.6%	5,074	▲44.9%	470,869	▲48.1%
資料出所	国土交通省									

	企業倒産（負債額1千万円以上）				信用保証		貿易（敦賀港・福井港）			
	件数	前年比	負債額		金額		輸出	前年比	輸入	
			百万円		百万円				百万円	
	年度		年度		年度		年		年	
2013年	64	▲34.0%	8,880	▲89.6%	56,094	▲11.5%	124,057	▲11.9%	82,941	11.3%
2014年	72	12.5%	17,439	96.4%	45,600	▲18.7%	95,482	▲23.0%	97,850	18.0%
2015年	57	▲20.8%	83,047	376.2%	38,159	▲16.3%				
2015年 5	6	▲33.3%	2,246	▲14.2%	2,145	▲20.3%	9,877	18.3%	6,362	▲6.1%
6	4	▲50.0%	108	▲73.1%	3,360	▲24.6%	9,316	14.2%	7,642	3.5%
7	4	0.0%	457	46.0%	3,934	▲15.5%	9,140	14.8%	9,914	1.9%
8	2	▲50.0%	112	▲68.7%	4,025	▲7.1%	9,431	22.9%	6,680	▲38.4%
9	2	▲60.0%	126	▲88.7%	4,688	▲37.5%	8,726	42.9%	7,774	5.2%
10	5	▲16.7%	392	▲55.1%	2,841	▲16.7%	10,282	24.4%	7,708	▲39.8%
11	5	25.0%	368	91.1%	2,412	▲10.9%	7,923	▲7.6%	6,847	▲13.8%
12	5	66.7%	3,628	4802.7%	3,719	▲34.3%	8,813	12.6%	7,242	0.1%
2016年 1	5	0.0%	1,008	272.0%	2,159	0.4%	7,885	▲4.1%	7,173	▲18.9%
2	7	▲12.5%	1,366	▲45.7%	2,576	▲0.1%	8,202	12.3%	5,985	▲41.0%
3	3	▲25.0%	322	▲88.8%	3,884	3.6%	9,369	2.2%	7,350	▲10.6%
4	4	▲55.6%	173	▲99.8%	1,598	33.8%	8,569	▲6.5%	8,581	1.0%
資料出所	東京商工リサーチ				信用保証協会		大阪税関			

	眼鏡輸出実績						芦原温泉入込状況		有効求人倍率 （※2）	完全失業率
	枠類合計		眼鏡枠		眼鏡		客数(人)	前年比		
	百万円	前年比	百万円	前年比	百万円	前年比				
	年		年		年		年		年度	年度
2013年	22,079	▲0.5%	12,881	2.1%	9,198	▲3.9%	734,957	▲4.2%	1.30	2.7%
2014年	24,661	11.7%	13,703	6.4%	10,958	19.1%	743,877	1.2%	1.50	2.4%
2015年	26,849	8.9%	14,548	6.2%	12,300	12.3%	898,364	20.8%	1.63	
2015年 5	2,281	22.3%	1,220	15.9%	1,061	30.6%	62,904	40.2%	1.57	1.8%
6	2,074	▲4.3%	1,176	3.9%	898	▲13.3%	60,080	37.1%	1.64	1.8%
7	2,248	9.9%	1,211	▲5.9%	1,037	36.5%	73,760	35.0%	1.65	1.5%
8	2,156	8.4%	1,230	7.5%	926	9.6%	110,648	11.1%	1.64	1.3%
9	1,856	▲0.5%	1,105	6.6%	751	▲9.4%	72,201	63.7%	1.58	1.3%
10	2,380	22.2%	1,223	7.5%	1,157	42.8%	77,884	42.4%	1.60	1.8%
11	2,243	▲1.8%	1,124	▲9.8%	1,118	8.0%	89,431	14.7%	1.61	1.9%
12	2,542	16.0%	1,347	15.1%	1,195	17.1%	89,420	17.9%	1.64	1.7%
2016年 1	2,397	7.2%	1,204	3.3%	1,193	11.4%	67,045	6.5%	1.64	1.3%
2	2,475	14.0%	1,202	2.2%	1,273	28.0%	74,653	11.2%	1.71	1.5%
3	2,292	▲10.1%	1,167	▲17.7%	1,125	▲0.4%	80,353	10.0%	1.77	1.8%
4	2,814	33.6%	1,324	15.4%	1,489	55.5%			1.86	2.0%
資料出所	財務省貿易統計						あわら市役所		福井労働局	県政統計課

（注）有効求人倍率の年度は原数値、月別は季節調整値 （※2）有効求人倍率の2014年12月以前の数値は新季節指数により改訂されています。

個人事業主様、中小企業オーナー様へ  
法人カードがお勧めです。



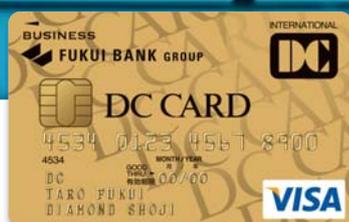
① 経理の合理化効率化が可能

② 仕事とプライベートの切り分けが明確に

③ 効率的な資金運用

# MAKE EFFICIENT

さまざまなシーンで業務の効率化が図れます!!



お申込みはお近くの福井銀行窓口まで。(福井銀行はDCカード、JCB法人カードの取次をしています。)

## 株式会社福井カード



〒910-0023 福井市順化1丁目2番3号 TEL.0776-21-7881 (9:00~17:00土日祝休み)

貸金業者登録番号:北陸財務局長(10)第00024号/包括信用購入あっせん業者登録番号:近畿(包)第10号  
日本貸金業協会会員 第002758号/一般社団法人日本クレジット協会会員 第041340000号

福井カード

検索

ファイナンス・リースで、地元を元気に。

 **株式会社 福銀リース**



当社は、昭和58年9月に福井銀行グループの総合リース会社として発足いたしました。

情報関連機器・産業機械・土木建設機械・医療機器・商業設備など  
あらゆる機械・装置・器具及び備品のファイナンス・リースを通じて、  
地元企業の発展に貢献することを目指しております。

**会社概要**

商号／株式会社 福銀リース  
設立／昭和58年9月16日  
資本金／50,000千円  
決算期／3月(年1回)  
所在地／福井市照手1丁目2番17号  
事業内容／コンピュータ機器、事務用機器、産業機械、工作機械  
車輛、医療機器、商業用設備等各種物件のリース・割賦販売

**沿革**

◎昭和58年9月  
福井銀行グループの総合リース会社として、  
住商リース株式会社(現三井住友ファイナンス&  
リース株式会社)との合弁により  
「福銀住商リース株式会社」設立  
◎平成9年4月  
商号を「株式会社 福銀リース」に変更

お客さまにピッタリとはまるピースを。

## 代金回収サービス「ふくいネット」

FUKUINET

全国のどの金融機関からでも迅速かつ正確に集金を代行処理する「ふくいネット代金回収サービス」。

お客さまの集金業務をよりスムーズに、より効率的にサポートしています。

## システムインテグレーション

System Integration

ネットワークシステムのコンサルティングをはじめ、導入計画・運用管理・セキュリティ・クラウド導入・Web 開発など、あらゆるシステムサービスをお客さまに提供しています。

## エレクトロニックバンキング

Electronic Banking

福井銀行グループの一員として、企業のお客さま向け及び個人のお客さま向けインターネットバンキングをはじめとする、エレクトロニックバンキングサービスの導入・サポートをしています。



福井ネット株式会社

〒918-8107 福井市春日町238-3 TEL : 0776-33-6618 (代)  
<http://www.fukuinet.co.jp>

福井銀行は経営革新等支援機関です

経営革新等支援機関とは...

中小企業が安心して経営相談等が受けられるために、専門的知識や実務経験が一定レベルの者に対し、国が認定することで、公的な支援機関として位置づけられています。  
福井銀行は平成24年11月5日に認定を受けました。

# こんな悩みを抱えている方、ご相談ください！

自社の経営を「見える化」したい  
企業に密着した、きめ細やかな経営相談から、財務状況、財務内容、経営状況に関する調査・分析をしたい

事業計画を作りたい  
新商品の開発、新たな生産、販売方式の導入、設備の導入、新サービスの提供、資金調達など

取引先を増やしたい  
販売先を拡大したい

専門的課題を解決したい  
海外展開、技術的課題解決、事業承継・M&A など

国県市町の各種施策について知りたい  
補助金情報、税制情報、セミナーなど

お問い合わせ・ご相談は 福井銀行 各営業店 もしくは 営業支援グループ ☎ (0776)25-8021 まで

## 編集後記

2016 盛夏号

今回は、福井県立大学地域経済研究所の井上准教授から寄稿いただき、これまでとは少し違った目線から地域間連携について考察いただきました。

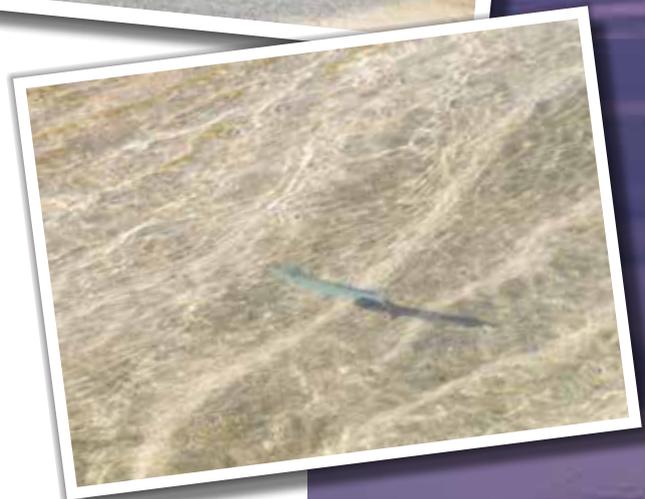
また、今回は独自企画としてクローズアップ「福井県企業、女性活躍推進の取組状況は？」のほか、6月に行いました景況アンケートの結果報告と当行の女性活躍の取組みを紹介させていただきました。

英国の国民投票によるEUからの脱退報道後、大幅な円高、株安になり、国内経済への悪影響が懸念されております。また、世界中で広がるテロの脅威やナショナリズムの台頭など、経済面だけでなく政治的にも不安定さを増している気がします。また、気候変動の影響による大規模災害も各地でおきており非常に気がかりです。地方創生や一億総活躍社会の実現に向け、産官学金が一体となってさまざまな取組みを行う中で、大きな逆風とならないことを祈るばかりです。とはいえ、今こそマイナス思考になることなく、積極的に活動されている地域のみなさんとともに、若者も魅力を感じて住み続けたい、また他県からも移住したくなるような魅力ある福井県になるよう、地域金融機関として応援していきたいと思っております。

なお、景況アンケートの概要も掲載しましたが、詳細は当行のホームページにてご確認くださいと思います。

(情報支援チーム チームリーダー 松浦 忠義)





## 福銀ジャーナル

2016年7月 盛夏号

編集発行：株式会社 福井銀行 経営企画グループ 情報支援チーム  
〒910-0023

福井県福井市順化1丁目3番3号（福銀センタービル）

Tel (0776)26-9847 Fax (0776)24-1213

URL <http://www.fukuibank.co.jp>



いつも、いつでも、いつまでも。

# 福井銀行